

1960年代から現在まで

赤瀬川原平

芸術論展

「THE PRINCIPLES OF ART」BY GENPEI AKASEGAWA

FROM 1960S TO THE PRESENT



「神収品・模型千円札」梱包作品(1994) (1963) 名古屋市美術館蔵

GENPEI  
AKASEGAWA

2014年10月28日[火] →  
2014年12月23日[火・祝]

開館時間 10:00-18:00 (金・土曜日は20:00まで)  
※入場受付は開館の30分前まで

休館日 11月4日、12月1日

観覧料 一般 1000円(800円) 大学生 700円(560円)

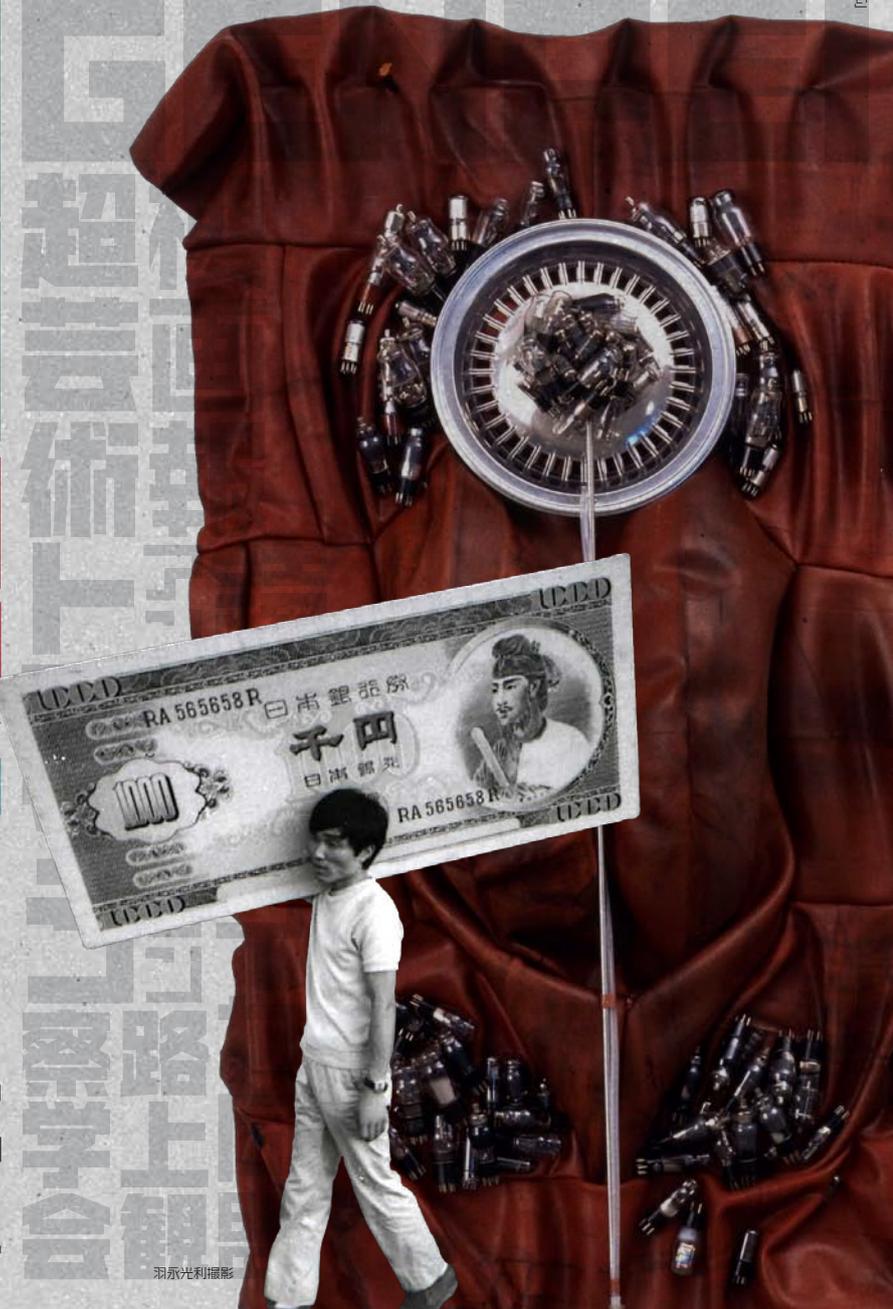
※小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※( )内は前売・団体20名以上、市内にお住まいの60歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(10月19日まで)、およびローソンチケット(Lコード:31360)、セブンイレブン(セブンコード:033-362)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(12月23日まで)にて販売。

【主催】千葉市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

【協力】白石コンテジポリアーアート

【協賛】三ツアコム、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン 日本興亜、日本テレビ放送網

千葉市美術館  
CHIBA CITY MUSEUM OF ART



羽永光利撮影

# 路上観察学会 vs ライカ同盟

藤森照信 + 秋山祐徳太子 + 松田哲夫

11月7日(土) 15:00~(14:30開場)

11階講堂にて / 先着150名 聴講無料

路上観察学会の理論的支柱藤森照信と、ライカ同盟の秋山祐徳太子が、赤瀬川原平が参加した2つの路上観察系グループの違いと共通点を語る。進行は路上観察学会の仕掛人松田哲夫。

# 原平さんは弟子の七光り

南伸坊 + 久住昌之 + 松田哲夫

11月15日(土) 14:00~(13:30開場)

11階講堂にて / 先着150名 聴講無料

多くの著名な人物を排出した美学校赤瀬川原平教場。その代表格ともいべき南伸坊(イラストレーター)と久住昌之(マンガ家・ミュージシャン)、そして初期に助教を努めた松田哲夫が、師であり、盟友でもある赤瀬川を熱く語る。

# ハイレッド・センター、内科画廊と世の周辺

田名網敬一 + 谷川晃一 + 山下裕二

12月6日(土) 14:00~(13:30開場)

11階講堂にて / 先着150名 聴講無料

1960年代中頃、ハイレッド・センターをはじめとする前衛芸術家の活動拠点だった内科画廊。ここで活躍した田名網敬一と谷川晃一が、赤瀬川をはじめとする仲間たちとの交流を回顧する。進行は美術評論家の山下裕二。

【申込方法】上記3イベントとも、往復はがきに、郵便番号・住所・氏名・電話番号 希望のイベント名、参加人数(2名まで)を明記の上 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係 まで  
※お申込は1つのイベントにつき1通、申込多数の場合は抽選

申込締切 [1] 10月22日(水) [2] 11月5日(水) [3] 11月26日(水) 必着

## トークショー

### 「多元宇宙の缶詰」

監修: 奥村雄樹

ゲスト: 永井均(哲学者/日本大学教授)

赤瀬川の「宇宙の缶詰」をもとに、アーティストの奥村雄樹が考案した参加型のプロジェクトです。奥村の監修のもと、参加者は「宇宙の缶詰」の自分だけのバージョンを制作します。

12月21日(日) 13:00より(12:30開場)

11階講堂にて / 定員20名・参加無料 / 参加者は紙ラベルの缶詰1個をご持参ください(詳細は当館ホームページをご覧ください)

【申込方法】往復はがきに、郵便番号・住所・氏名・電話番号 希望のイベント名、参加人数(2名まで)を明記の上 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係 まで※1人1通まで、申込多数の場合は抽選  
※申込締切 12月10日(水) 必着(往復はがきによる事前申込)

## 市民美術講座

### 「赤瀬川原平—千円札裁判時代の制作活動」

講師: 水沼啓和(当館主任学芸員)

11月29日(土) / 14:00より(13:30開場)

11階講堂にて / 先着150名 / 聴講無料

### 「赤瀬川原平交友録—1960年代を中心に」

講師: 水沼啓和(当館主任学芸員)

12月13日(土) / 14:00より(13:30開場)

11階講堂にて / 先着150名 / 聴講無料

## ギャラリートーク

担当学芸員による—10月29日(水) 14:00より

ボランティアスタッフによる—会期中の毎週水曜日14:00より(10月29日をのぞく) ※水曜日以外の平日14:00にも開催することがあります。 ※会場の混雑状況により中止となる場合があります。

### ■次回展予告

「プラチスラヴァ世界絵本原画展 絵本をめぐる世界の旅」  
2015年1月4日(日)—3月1日(日)

## ■DIC川村記念美術館「五木田智央」展 (8/31-12/24)との連携

本展では、より多くの方に現代美術に親しんでいただくため、千葉県佐倉市にあるDIC川村記念美術館と相互割引を実施いたします。また、両館を効率よく回れる無料往復バスも運行。現代美術をめぐる小旅行におすすめです。

### ◆チケット半券提示による相互割引

「赤瀬川原平の芸術原論」展、「五木田智央」展のチケット半券(有料券のみ)、または各館の友の会会員証をご提示いただいたお客様は、それぞれの展覧会観覧料が割引となります。

◎DIC川村記念美術館「五木田智央」展 一般 1200円→1000円 学生・65歳以上 1000円→800円 ◎千葉市美術館「赤瀬川原平の芸術原論」展 一般 1000円→800円 大学生 700円→560円

### ◆無料往復バス

DIC川村記念美術館「五木田智央」展と会期が重なる期間中(10月28日~12月23日)の土・日・祝日に、両館を往復する無料バスを運行します。※所要時間約40分(交通状況により所用時間が変わることがあります) / 定員37名

◎運行日 / 11月1(土)、2(日)、3(月・祝)、8(土)、9(日)、15(土)、16(日)、22(土)、23(日・祝)、29(土)、30(日) / 12月6(土)、7(日)、13(土)、14(日)、20(土)、21(日)、23(日・祝)  
◎千葉市美術館発(美術館エントランス前から発着) 12:00 / 14:00  
◎DIC川村記念美術館発(美術館無料バス乗り場から発着) 13:00 / 15:00

## ■町田市立文学館こぼらんど

### 「尾辻克彦×赤瀬川原平—文学と美術の多面体」展 (10/18-12/27)との提携

本展では、町田市立文学館こぼらんどで開催される「尾辻克彦×赤瀬川原平」展と提携し、相互割引を実施します。肉筆原稿を始め、文学系の資料も多く出品されます。

### ◆チケット半券提示による相互割引

「赤瀬川原平の芸術原論」展、「尾辻克彦×赤瀬川原平」展のチケット半券(有料券のみ)をご提示いただいたお客様は、それぞれの展覧会観覧料が割引となります。

◎町田市立文学館こぼらんど「尾辻克彦×赤瀬川原平」展 一般 400円→300円 大学生 200円→150円 ◎千葉市美術館「赤瀬川原平の芸術原論」展 一般 1000円→800円 大学生 700円→560円

## 交通案内

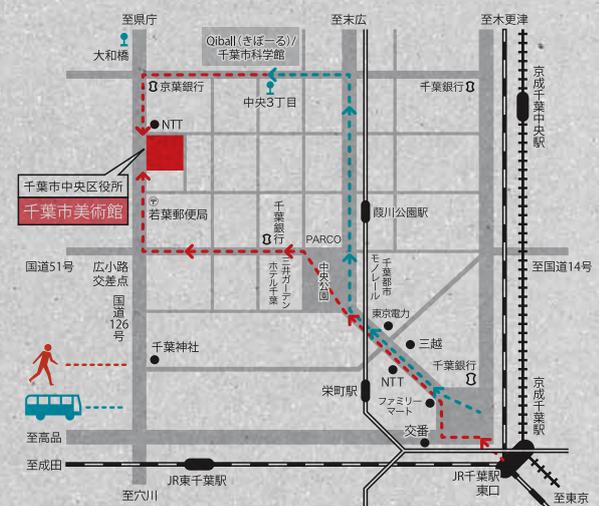
### ■JR千葉駅東口より 徒歩約15分

◎バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分 ◎千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分

### ■京成千葉中央駅東口より 徒歩約10分

### ■東京方面から車では

京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く  
※千葉市中央区役所と同じ建物です。※地下に区役所と共有の機械式駐車場がありますが、混雑時にはご不便をおかけすることもありますので、公共交通機関にてご来館をお願いします。



# 千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8  
TEL. 043-221-2311 <http://www.ccma-net.jp>



# 赤

瀬川原平(1937-)は、前衛美術家、漫画家・イラストレーター、小説家・エッセイスト、写真家といった複数の顔を持つ芸術家です。

前衛美術家としてその経歴をスタートした赤瀬川は、1960年、篠原有司男、吉村益信、荒川修作らとともに「ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ」の結成に参加。1963年には中西夏之、高松次郎と「ハイレッド・センター」の活動を開始し、「反芸術」を代表する作家となりました。またこのころ制作した一連の《模型千円札》が「通貨及証券模造取締法」違反に問われ、1965年より「千円札裁判」を闘うこととなります。その結果、彼の名は現代美術界の外にも広まって行きました。同裁判の控訴審が終了した1968年頃からは、漫画家・イラストレーターの領域に活動の場を移し、『桜画報』の成功によって一躍パロディ漫画の旗手となります。さらに70年代末より文学の世界にも本格的に足を踏み入れ、1981年には芥川

賞を受賞しました。80年代以降は、「超芸術トマソン」「路上観察学会」「ライカ同盟」の活動を通して、街中で発見した奇妙な物件を写真に記録・発表し続けました。また1999年、エッセイ『老人力』がブームを巻き起こしたことは、記憶に新しいところです。

このように赤瀬川は、とてもひとことでは言い表せないほど多彩な活動を展開してきました。一方で、様々な分野を大胆に横断しながらも、60年代から近作まで、その制作への姿勢は一貫しています。彼は何かを表現したり、一から創造したりすることよりも、卓越した観察眼と思考力を駆使して、平凡な事物や常識をほんの少しズラし、転倒させることを好みます。そうすることで見慣れた日常を、ユーモアに満ちた新鮮な作品へと変えてしまいます。60年代の《模型千円札》《宇宙の缶詰》にしろ、《トマソン》『老人力』にしろ、この独特のズラしと転倒の方法論から生まれました。

赤瀬川原平は、その独創的でユーモアあふれる作品によって、日本の現代美術史のなかで揺るぎない地位を築く一方、いまなお若い作家たちに刺激を与え続けています。本展は、500点を超える赤瀬川の多彩な作品・資料を通して、50年におよぶ氏の活動を一望します。20年前に名古屋市美術館で開かれた「赤瀬川原平の冒険－脳内リゾート開発大作戦」を除けば、これまでその活動が本格的に回顧される機会はありませんでした。今回、60年代の前衛美術はもちろんのこと、70年代の漫画・イラストレーション、80年代のトマソン、路上観察学会の仕事にも大きなスペースを割り、美術分野を中心に、この作家の幅広い活動を展覧します。さらに土方巽、唐十郎、足立正生、小野洋子、瀧口修造、林静一、つげ義春、永山則夫、中平卓馬、鈴木志郎康らとの交友を示す作品資料も展示することで、当時のより広い文化状況の一端もお見せ出来ればと思います。

## ネオ・ダダと

## 読売アンデパンダン

赤瀬川は、ネオダダ時代をはさみ、1958年の第10回から1963年の最終第15回まで、読売アンデパンダン展に出品しました。第13回展出品作《復讐の形態学(ヴァギナのシート)》(一番目のプレゼント) (1961/94)、第15回展出品作《復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)》(1963)などを展示するとともに、現存しない作品も記録写真によって紹介します。



▼「復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)」(1963)と「事実の方法」(1963/1994) 名古屋市美術館蔵



▲「首都圏清掃整理促進計画(平田実撮影)」(1964) ©Minoru Hirata



▲「不在の部屋」(1964/1994) 名古屋市美術館蔵

赤瀬川をはじめとするハイレッド・センターのメンバーの関心は、《模型千円札》や《梱包作品》のようなオブジェから、イヴェントやパフォーマンスのような「直接行動」へと移っていきました。《シエルトア計画》(1964)や《首都圏清掃整理促進運動》(1964)をはじめとする彼らの活動を、多彩な資料や当時の記録写真によって多面的に展覧します。

# ハイレッド・センター

# 千円札裁判

法廷を舞台に、芸術と司法が異種格闘戦を繰り広げた千円札裁判。多数の前衛作品が法廷を占拠するといった興味深い出来事も起こりました。赤瀬川周辺の評論家や作家たちの支援のもと闘われたこの裁判を、数々の「押収品」、判決文などの資料、記録写真によって跡づけます。



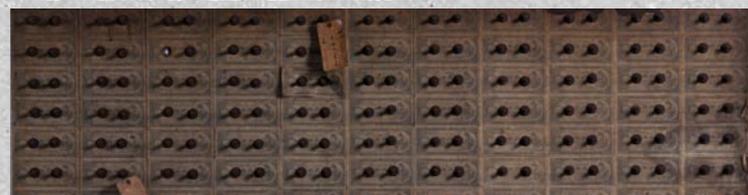
# GENPPEI AKASEGAWA



▼「模型千円札」[ネル作品] (1963) 広島市現代美術館蔵



▲「大日本零円札」(1966)▲





▲「法廷での展覧会(記録写真)」(1966/1994) 名古屋市美術館蔵



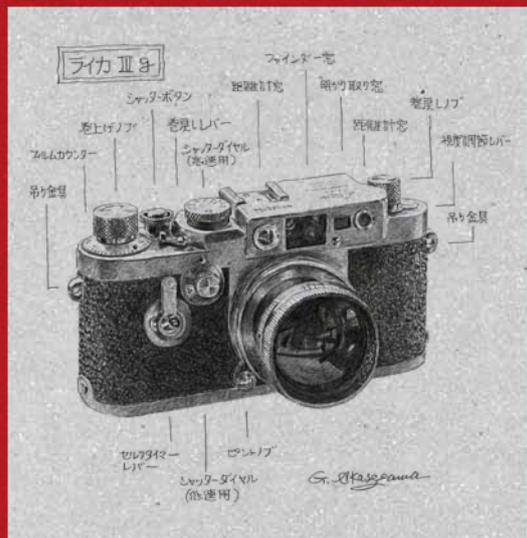
生活の糧として始めたイラストの仕事は、70年頃から赤瀬川の活動の中核を占めるようになります。『朝日ジャーナル』誌に「櫻画報」、『現代の眼』誌に「現代考シリーズ」を連載し、赤瀬川はパロディ漫画の先駆者として活躍します。『月刊漫画ガロ』掲載の「お座敷」をはじめ、原画類を中心に展示を構成。初公開のものも多数含まれます。



「縮小機画通信三」(1970) 個人蔵

## 櫻画報と「プロダ・ジャーナル」ズレ

## 赤瀬川原平の芸術原論展



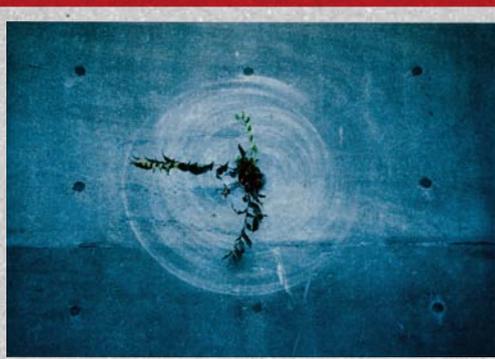
# 芸術原論展

# 「THE PRINCIPLES OF ART」

「ライカIIIg」(2000) 協力: 資生堂

## ライカ同盟と中古カメラ

80年代に始めた中古カメラ収集の趣味をきっかけとして、1992年、ライカ愛好者秋山祐徳太子、高梨豊と「ライカ同盟」を結成した赤瀬川。その活動を通して、路上観察の楽しさを追い求めて行きます。『アサヒカメラ』誌上に掲載したカメライラストや秋山、アンリ菅野とともに描いた油彩風景画など、趣味人赤瀬川の新境地をご覧ください。



「植物ロケ」【一全周型】(1988)



「トマソン」黙示録 真空の踊り場・四谷階段(1988) 大分市美術館蔵

## 超芸術トマソンと路上観察学会

赤瀬川は、路上で偶然発見した「不動産に付着して美しく保存されている無用の長物」トマソンを、『写真時代』の連載で世に広めていきます。そして藤森照信、林文二、松田哲夫、南伸坊らとともに1986年に結成した「路上観察学会」の活動を通して、さらなる路上観察の可能性を探求しました。多数の写真プリントとともに、美学校の弟子と結成した「トマソン観測センター」関連の物品も展示します。



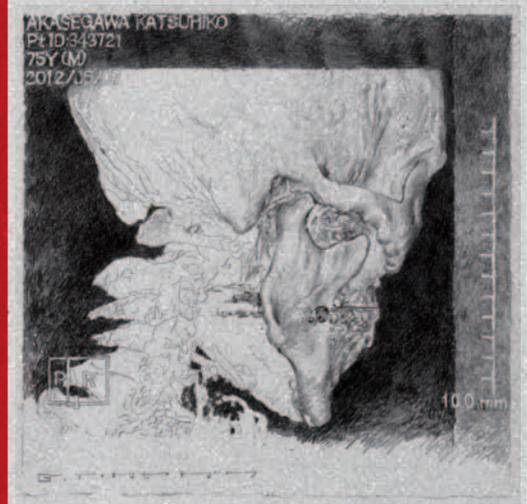
▲「路上観察学会発会式」(1986) 個人蔵



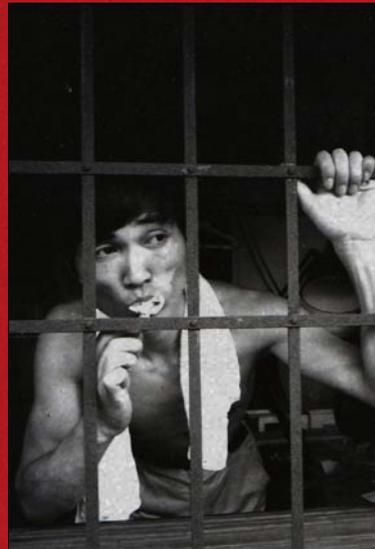
▲「漫画主義」白石ユウジ(1969) 協力: 白石ユウジ・アーツ



▲「漫画劇」白石ユウジ(1971) 協力: 白石ユウジ・アーツ



▲「トマソン」(2013) 協力: キヤノン-SB



羽原光利撮影